



令和5年も残すところ、あと少しとなってきました。会員の皆様にはお元気でご活躍のことと思います。もう少し早くこのニュースを出そうと思っていましたが、忙しくて今になりました。この間の取り組みについて、嬉しいニュースも含め、報告させていただきます。

### 児童・生徒への学習支援

令和5年度は、小学生8名、中学生1名、高校生2名、計11名への、日本語や学習の支援に取り組んできています。生徒たちの国籍もフィリピン、ベトナム、中国、ブラジルと様々です。この中で、7名が舞鶴市からの委託支援対象生徒で、他の4名は高校からの依頼や本人ならびに保護者・支援者からの依頼に基づいて、私たちの支援ネットが、当該学校や自宅や聖母訪問会で支援を継続しています。

これらの生徒たちは、学年や日本での生活経験年数や環境に応じながら一生懸命がんばっています。そして、卒業を控え、大学受験した高校生2名が、つい先週、素晴らしい結果を得ました。これらの報告を、支援・指導にかかわっている会員の感想を含めてさせていただきます。

### ○大学合格、おめでとう！ 支援してきた2名の高校3年生、希望大学に合格！

支援をしてきた高校生が、希望する大学に合格しました。嬉しいビッグニュースをここに紹介します。

中学卒業と同時に来日した田中聖莉奈さんが私たちの支援を受けながら、本人の努力により翌年に日星高校に入学。その後3年間、聖母訪問会の学習教室で引き続き支援・指導を受け、今年4月に第1希望の舞鶴市の医療センター衛生看護科に見事入学したことは、すでに報告しました。今、聖莉奈さんは毎日楽しく学習や実習に頑張っています。

さらに、日星高校3年在学中の池田アリーナさんが、先月末に大阪と京都の外国語大学を受験し、今月初めに合格しました。先週の土曜日のことです。この日は、高校の期末試験前で、その分かりにくいところについて教えて欲しいと聖母訪問会に来て、私たちと一緒に学習していました。

本人は、期末試験の学習も気になっていましたが、発表が同じ日の午前中だったので、そちらの方がより気になり、何度もネットで調べていましたが、なかなか結果が出てきません。しかし、やっと結果がネットに出て、「先生、合格している！」と報告。一緒に学習していた他の生徒たちや先生たちも、「合格か！アリーナ、おめでとう！」と、大喜び。大拍手。嬉しい感動の一瞬でした。

同じく日星高校で友人の外国籍生徒が、同じ外国語大学を受験していました。この生徒も、舞鶴市の委託事業制度を利用して、私たち支援ネットの安田達彦先生に中学校の時から学習支援を受け、日星高校に合格し入学しました。しかし、高校生活に少しなじめないときがあり、入学後、欠席がちとなったため、出野校長からの依頼があり、中学校時代に支援に当たっていた安田先生が、再び高校でも2年半にわたり支援を行うことにより、彼女も高校生活や学習に意欲的に取り組み始めることができ、この11月にアリーナさんと同じ2つの大学を受験しました。この発表日、彼女も希望するこの大学に合格したことを知りました。電話をして、「おめでとう」と言うと、「先生、合格できました。有難うございました。」と、電話口でうれし涙声。

「良かったね。おめでとう」。みんなでもた大きな拍手。「安田先生や学校の先生にすぐ連絡するんだよ！」と言うと、「はい、すぐします」と、本当に嬉しそうでした。

### 大学に合格したC子さんへの支援について

安田達彦

「Cさんはいろんな事情もあるかとは思いますが、欠席がちで学習意欲も乏しくなり、このままでは退学しかねないような感じなので、何とか支援をお願いできないか」との依頼を、2年前の10月に京都北部国際支援ネットを通して日星高校学校長から受け、当時1年生のC子さんへの支援がスタートしました。学校側からは、週1回1時間という支援時間の制約もあり、主にメンタル面の支援をお願いしたいとのことでした。彼女に出会った時、まるで旧友か教え子に再会したようで懐かしかったし、本人も嬉しそうにしていたのを覚えています。というのも、舞鶴市の中学校で2年生から3年生にかけて2年間教科学習の支援をしていたからだと思います。

支援内容は教科学習の進捗状況に応じ、現代文と英語の手助けが主でしたが、彼女と話をすることも少なくありませんでした。学習状況や将来の目標、友達のこと、家庭の様子など……。中学校での支援がそうであったように、高校でもその都度、彼女の話に耳を傾け心情に寄り添いながら自分の生活・学習や進路を前向きにとらえられるように心がけました。2年生になってからは精神的にもずいぶん安定してきたようで、先生方から「気になる」という話は聞かれなくなり、学習にも前向きに取り組めるようになっていったように思われました。進路については、当初は保育士になることを目標にして専門学校を考えていたようでしたが、その後、大学を目指すまでに意識に変化が見られ、学習意欲も向上していったように感じられました。

そして、この12月、彼女はアリーナさんと同じ大学を受けて合格し、来春からは同じ大学で夢に向かって学習するそうです。C子、やったね！おめでとう。これからも頑張るんだよ！

日星高校の先生方を含め、私たちネットの支援、舞鶴市の支援制度、そしてもちろん本人の努力、家庭の支援。いろんな周りの支援と本人の努力の結果が、このように全く知らない日本に来た外国籍児童・青少年の未来を切り拓きました。いろんな支援がつながりあっている成果です。舞鶴は素晴らしいですね。

### ○算数はとっても得意だが、日本語になかなか馴染めないA君

ほとんどの子どもたちは、指導・支援の時間に比例して日本語の読み、書き、そして教科学習の力もつき始め、学校生活や日常生活が比較的スムーズに進み始めます。そして、別教室での私達との個別学習にも楽しく参加してくれます。

しかし、その上達度は、子どもの置かれている状況によって大きく差がつくことに驚かされます。その一つが、家庭での日本語による会話の頻度のちがいです。母国語のみで子どもと会話をしている家庭ほど、その子どもの日本語会話力はつきづらくなっているのが実態です。

A君は、算数は大變得意で、学習している2年生の内容は、「先生、easy。もっと難しいのがやりたい」と、高学年の問題に取り組むくらいの意欲を見せます。しかし、日本語（国語）の学習は教えてもなかなか定着しにくいのです。彼は、両親ともに中国籍で、家庭では母国語で会話をしています。そのため、日常会話の日本語もなかなか定着せず、学習したひらかな、カタカナ、漢字も忘れがちです。学校でも、時には先生に母国語の中国語で話しかけることさえあります。

教えていても、話したいとき、聞きたいときは、「先生、ポケトークを貸してください」と

言って、ポケトークを使って日本語と中国語でコミュニケーションを図っていきます。いろんな話を楽しそうにしてきますし、2年生とは思えないほど、いろんな考えを出してきます。

先日彼に聞いてみました。「家では日本語、中国語、どちらで話をしているの?」。彼が答えました。「中国語!」。「なんで日本語で話をしないの?」。「いろんな家の事を話そうとしたら中国語でしか話せないもの」。実は、これが外国籍児童・生徒の実態なのです。彼は本当に小学校2年生とは思えないほど賢明な児童です。いろんな事を尋ねてきます。まるで思春期の中学生と対応している程の錯覚を時に感じます。外国籍の児童は、日本語が十分に話せなければいろんな話をしたいときには当然母国語で家族といつも話をします。これは日本語の習得にはマイナスになります。しかし、考えてみれば、日本語で意思疎通がはかれない段階ではあたりまえの話です。私たち支援に当たる者は、このことを十分理解し、把握していないと、支援・指導は成立しないと、つくづく思い知らされます。

しかし、このことを容認しているだけでは、彼の日本語や学習は前進しません。これも実は私たちの課題です。支援に当たっている井関先生の感想です。

### A君にかかわって

井関強

A君は中国出身の小学2年生の子どもです。1年生の漢字からスタートし、今2年生の漢字の学習支援をしています。もちろん私は中国語がしゃべれません。ですからスマホの翻訳機能を使い悪戦苦闘しながらの日本語支援です。さらに彼は、長時間集中して学習に向き合うことができません。これは小学2年生なら当然のことなのかもしれませんが、中学校教師であった私にはその対応法が分かりません。現在はある時間学習したら5分休憩するパターンで45分間の学習を進めています。休憩の5分間に彼は、かくれんぼをしたりゲームをしたりします。これで十分な日本語支援になるのかと不安にもなります。

さらに大きな不安材料があります。それは、A君の両親がともに中国出身であることです。これまでの子どもは両親のどちらかが日本人であったので、家庭で日本語を教えたり、家庭生活の中で日本語に触れたりすることが可能でした。しかし、A君の場合は親が意識をしなければ、家庭で日本語に触れることがありません。そのことが彼の日本語習得に大きく影響を与えていると思います。悩み多き日本語支援ですが、私自身も教えていただきながら、将来A君が希望する進路を実現するため、日本で生活していくために、微力ながら力になりたく思います。

(追伸:後野記す)

2月中旬に、A君に対してポケトークを通して対話した。1年半の支援・指導の中で一定の対話ができると思い、少し深く入り込んだ話をした。「今まで2年間ほど一緒に勉強してきたけれど、A男君は、ひらかなやカタカナ、漢字をすぐに忘れてしまっているね。来年から3年生だけど、このままでは学習がもっと分からなくなるね。だって、今教室で学習している国語の教科書がほとんど読めないのではない?算数は本当に素晴らしいと思う。君は素晴らしい力を持っている。でも、日本語を学習しようとする気持ちは、すごく弱い。」という話を、時間をかけてした。彼も、日本の2年生の子どもでは予想できないほど自分の考えを中国語で返ってきて、いわゆるデスクッションができた。そうして最終的には今の態度をもっと変えて、日本語の学習に意欲的に取り組むことを約束し、2学期の最後の2日間の学習態度は大きく変わった。3学期の学習に対する彼の姿勢はさらに大きく変わるだろうと楽しみにしている。

## ○1年生のフィリッピン籍児童B男君の支援

私（後野国雄）は、1学期末から支援を始めた6年生の男子・2年目の6年生女子（いずれもフィリッピン籍）、2年生中国籍男子、1年生フィリッピン籍男子たちの日本語と教科学習支援に当たっています。毎週一人当たり4時間から6時間の支援です。その内、半分は日本語（国語）、残りは算数や理科、英語等を教えます。

一対一の対面授業なので、じっくりと集中して指導・支援ができます。高学年の生徒は45分の授業にしっかり集中できます。特にフィリッピン籍の高学年の子どもは母国では英語で学習してきているので、支援も英語で説明ができるのでやりやすいです。

しかし、母国語が英語でない子どもたちや低学年の子どもへの支援・指導は英語が通じないので本当に工夫がいります。また、45分間の学習にどのように集中して日本語の支援をしていくのか工夫がいつも必要です。時には休憩しながら、雑談して日本語の理解度を確認しながら行うことの大切さを感じます。

例えば、今支援している1年目のフィリッピン籍のB男君について話してみたいと思います。彼の父は中学校卒業までは日本の学校に在籍していたので、日本語については十分理解できますが、母親はフィリッピン籍で日本語はほとんど理解できません。

B男は少し英語が話せますが、英文の読み書きは全くできません。夏休み前から支援に入り、1日2時間、週5時間の支援・指導を私ともう一人の2名で日本語（国語）と教科の算数の支援・指導を行っています。現在、ひらかな、カタカナが一応終わり、漢字の学習に入っています。家庭では父や日本籍の祖父母と日本語で話せるので、B男は日本語で話す場に恵まれています。しかし、ひらかなや漢字の学習で簡単な文や単語が出てきたときに、その意味を聞いても多くは理解できていません。

算数でもフィリッピン籍の子供たちに共通する「乗法」の課題があります。「掛け算」が、独特の計算、暗記方法だということです。掛け算（乗法）を、私たちの様に「九九（くく）」を使うのではなく、「加法（足し算）」で計算していくのです。このように学習してきたB男に「九九」を理解し、覚えさせるのは相当の工夫と努力が必要です。しかもまだ日本語の読み書きやその意味が十分に理解できない彼にとっては大変です。だから、他の外国籍の子どもほどは、算数の学習を当初は好みませんでした。

例えば、

$3 \times 3 = 9$ …「さざんが、く」、 $3 \times 4 = 12$ …「さんし、じゅうに」…

$3 \times 8 = 24$ …「さんぱ、にじゅうし」



この覚え方には難しい日本語の発音、「撥音（ん）」、「拗音（小さな「ゆ」）」、「濁音（ご、じ）」、「半濁音（ぱ）」等がすでに入っています。これらは日本の2年生の子ども達でも理解するのが難しい子がいます。当然、日本に来て日本語もたどたどしく読み書きができない外国籍の子どもたちにどのように理解させ、覚えさせるのか至難の業です。B男をどうしたら楽しくこの学習に参加させることができるのか？実際B男は11月までほとんど算数の2桁の足し算、引き算はやろうとする気がありませんでした。ふざけた態度で全くやる気がない。そこで担任の先生と相談し、担任の先生からも、日本語は十分理解できなくても、難しくてもやろうとしないとクラスのみんなと一緒に勉強が分からなくなるよという意味の話をして頂きました。

このように担任の先生と連携しながら支援を継続する中で、繰り返し反復練習をする中で、少しずつ覚えていきます。

子どもの成長は早いものです。九九を理解しにくかった子どもたちが覚え始めると、次はタイムを計って「九九」の掛け算をゲーム感覚でやらせてみました。途端に面白がって乗ってやり始めたのです。まず、9問くらいの九九から初めて「タイムを計るよ。5, 4, 3, 2, 1

スタート」。かかった時間を書いて、「ハイ30秒」。毎回、授業の初めに行います。次第に時間が短くなり始めます。「先生、早い?」「うん、今日は早い。25秒」。途端に嬉しそうな顔。

このようにやりながら問題数をしだいに増やしていくと。次からは、「先生、算数!」と希望してきます。「まず、1時間目は国語。それができたら、2時間目は算数」と進めていきます。やがては、掛け算も、一度に20問、40問と増えていきます。B男も、「先生、タイム!」と、じぶんから時間を図ることを要求してきます。「ようし、では、9, 8, 7, … 2, 1, スタート」と合図すると、直ぐに乗って始めます。いまでは40問くらいして終わると、「先生、何分?」とか、「早かった?」とか、聞いてきます。その繰り返しによって、日に日に早くなってきます。

こうして、いつか、やがて九九を覚えてしまいました。このタイムを計って計算させる算数の教え方は、九九だけでなく、1年から2年くらいまでの低学年の2桁の加減の計算を指導・支援するときにも、面白いほど子どもたちは乗って来て、効果的な取り組みになっています。

しかし、このような子どもの中にも、家庭に帰ると親とは母国語のみで話しているため、どうしても、日本語が定着しにくい子どもも見られ、算数等では生き生きとして取り組むのですが、日本語にはそれほど興味を持って取り組みにくい子どもも見られます。

### 支援に関わって

後野まゆみ

今年はフィリピン籍の小学校4年生の男児とベトナム籍の小学校6年生女児と4年生男児、そしてフィリピン籍1年生の男児の4名の支援をしています。今まで支援の初めは、毎日の生活の中で必要な会話を理解させ、ひらがな、カタカナ、そして漢字へと進めていきます。でも、どの子どもも必ず行き詰まる時期があります。その一つ目は、「て、に、を、は」の使い方。二つ目は、「漢字の音読み、訓読み」の扱い方です。また、算数の支援です。小学校二年生の学習内容の「かけ算」。どれだけ粘り強く取り組み、理解できるようにするかが、とても大きな山です。

2年間という委託事業での支援時間の制限がある中、私がどこまで力になれるかは、その子、その子で違いますが、支援の時、笑顔で教室に来て、終わったとき笑顔で「またあした!」と言って自教室に戻っていく子の姿を見ていると、頑張ろう!と力がわいてきます。自教室で言葉も何も分からない子ども達が少しでも笑顔が増えるように支援を工夫したいと思います。

(教室での支援の様子)



毎週土曜日の十時前、3人は車で送ってもらって聖母訪問会にやってくる。迎えるのは後野さん（代表）、そしてまゆみさん、菅原さん、そして私。クラブのない時には内海さんを始め高田さんや何名か代わりで入ってくれるスタッフもいる。「おはようございます！」大きく元気な声で挨拶をして入ってくる。3人とは洋介くん、高行くん、ハナちゃん。長男の洋介くんは中学三年生。高行くんとハナちゃんは小学6年生だ。入ってくるなり、勉強が始まる。基本はマンツーマン。その日によって誰が誰を見るかは変わるが、マンツーマンの体制は変わらない。

洋介くんはいよいよ受験である。で、高校進学を目標に猛特訓。彼が苦手なのは数学。小学校での計算の基礎を十分に習得する機会が無かったので苦労している。中学1年生からの基礎的な計算が中心だ。文字式や一次方程式などに取り組み、理解はするが、計算の中に分数が入ってくるとピンチ。通分のしかたなど小学校の基礎に戻って復習もする。彼は分からないとき「ニヤッ」とするのが癖。『笑ってごまかすな!』と怒られながら頑張っている。最近は計算も速くなってきている。

高行くんは地域のバスケットボールチームに所属しているので、試合等で参加できないこともあるが、何もないうきは必ず出席。彼は算数に自信を持っていて、ほぼ理解できている。彼はとにかく早とちり、したがってケアレスミスがけっこうある。「あわてんぼう!」と言われながらも難しい問題にチャレンジしている。

ハナちゃんは、活動的な女の子。算数はチョッピリ苦手、でもコツコツ努力するのは3人の中で一番。算数の復習プリントを何枚もコツコツやっている。時間はかかるが確実に力を伸ばしている。最近は、学習中に飛び回るカメムシが気になってしかたがない様子。この間は超特大のカメムシを見つけ大興奮。スマホを取り出して撮影していました。

3人ともこの学習会のことを『塾』と呼び、真剣な学習の場として頑張っています。言葉の壁は日常生活ではほとんどありませんが、やはり学習となると厳しいものもあります。彼らに分かるよう、言葉をかみ砕いて説明してやりながら、国語・算数など学力を定着させていくことが大切です。

## ○舞鶴での外国籍技能研修生への日本語支援

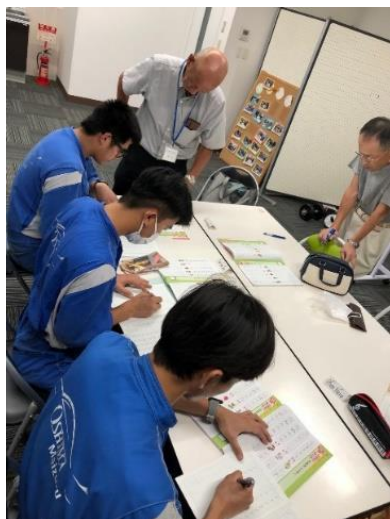
学校で学習する外国籍生徒や児童への日本語や教科学習支援への要請とともに、最近では、外国籍技能研修生への日本語学習支援を要請されてきていて、その取り組みも可能な限りにおいて始めています。それを紹介します。

### 1. 大嶋カーサービスでの技能研修生への日本語学習支援。

舞鶴自動車道の西舞鶴インターを降りて市内に入る手前に、光の湯という大きな天然水の温泉風呂があります。その前に数年前から大嶋カーサービス舞鶴店という大型車店が営業を始められています。

この店舗ではカンボジア籍技能実習生2名とフィリッピン籍従業員1名が働いておられますが、日本語の読み書きがまだ十分ではありません。そして、この店の店長が、私たち京都北部国際支援ネットの眞下賢一顧問の昔からの知り合いで、私たちネットが日本語の学習支援を行っていることを知られ、その支援を依頼してこられました。学習支援はこの3名の方の業務が終わった木曜日の6時から7時までに行うという条件で、支援に当たれるメンバーがいるか相談した結果、3名ほどが可能ということで、7月末から支援を始めました。

1人のフィリピンの従業員の方はすでに日本に長く住んでおられますので、日本語会話についてほとんど支障はありませんが、読み書きはこれからです。



二人のカンボジア技能研修生の青年は、来る前に日本語の研修を3ヶ月程受けていられますが、ひらがな、カタカナ、漢字の読み書きはこれからです。そこで、3名の支援員が基本的にその学習支援に当たっています。毎週木曜日、仕事が終わった後、6時から7時まで、1年生の国語教科書ワークを使って学習しています。一生懸命頑張っ



ておられます。

10月の初めには、私たち役員とバーベキューの交流会を行いました。

## 2. 教会に通う他府県からの技能研修生への支援。

聖母訪問会の舞鶴東支部教会に福井県大飯町から通ってきているベトナム籍の若い信者さん（女性）がいます。この方の日本語学習支援を同じ協会に通われている信者さんから依頼されました。支援にかかわってきているメンバーと相談した結果、安田達彦さんが担当してもらえることになり、毎週土曜日、東の協会か西の聖母訪問会で支援をしてもらっています。最初は1時間ほどでしたが、彼女の方からもう少し長い時間教えて欲しいという要望があり、午前から午後にかけて2時間から2時間半ほど熱心に日本語の学習を安田先生の指導の下に受けておられます。

## ○聖母訪問会学習教室の清掃、草刈り



今年も学習教室にお借りしている聖母訪問会の教室の清掃とその周辺の草刈り、樹木の整備を、6月と10月の2回にわたり行いました。京都北部国際支援ネットの役員や会員、そして学習教室に参加している生徒の皆さん方の協力により、教室をきれいに拭き掃除していただき、広い敷地内の草刈り、そして周囲に生え茂った雑木の伐採を行いました。皆さん、本当にありがとうございました。

←（6月4日の清掃・草刈り）

教室の清掃、敷地内の草刈り、そして周りや道路周辺の街路樹の伐採を終えた後の集合写真です

※次のページの文は、いつも教室の清掃、周辺の草刈りに参加していただいている理事（総務）の小国孝子さんの感想です。

教会へ掃除に行く前はおやつを買いに行きます。ハナちゃんは「グミが好きや」と、言っていたことを思い出しながら買おうとするのですが、私はグミを食べないのでどんなのが好きか分からず適当に買って行くと食べてくれます。谷口さんも、「大人やのに好きなの！」と、言われています。

話しの種になればと買うのが楽しみです。部屋の掃除は楽ですが、掃除機があればもっときれいになるだろうなと思いつつやっています。先生方はお忙しい中、日本語を教えられています、大変だろうなと思っています。微力ながら掃除で少しでもお役に立てればと思い、出席しています。(小国孝子)

小国さんを始め、参加いただいています会員の皆さん、生徒の皆さん、ご協力ありがとうございます。そして、いつも大型トレーラーを持参していただき、刈り取った雑草や雑木を無料で引き取って頂いている井木さん、本当に助かります。有難うございます。

(井木さんのトラックに雑草雑木を積み込む) →



○英会話教室 多くの会員の皆さんが参加され、楽しく学習しておられます。

私たちネットの会員の中で、20名近くの方が英会話教室に参加され、会員としても協力していただいています。また、中には、家族の方も会員として協力を得ています。2024年度からは、今までの外国からの技術実習制度が見直され、新制度が創設される方向で日本政府内が検討していることはご存じのことだと思います。そうなりますと、ますます多くの外国からの青年や家族が舞鶴にもやって来ます。事実、私の小さな村を含め、外国籍からの労働者が増え始めています。当然、その人たちとの地域での生活では、いろんな交流を図る必要が起きますし、コミュニケーションとして英会話も重要視されてきます。そして、いろんな交流と支援が必要となってきます。

もともと私たちの英会話も、それを目的として開催していることはご存じの通りです。火曜日の午前と水曜日の夜の2クラスには、皆さん方積極的に参加され、



(↑水曜日のクラス)

テキストのレベルも日に日に高くなってきていますが、頑張っておられます。

火曜日のクラスは「SIDE by SIDE 二版」、水曜日の夜のクラスは「SIDE by SIDE 四版 EXTRA」を使って学習しています。



(↑火曜日のクラス)

(文責：滝花、後野)

この「つなぐ」へのご意見、ご投稿等は下記へお寄せ下さい。

後野国雄 携帯TEL 090-8887-5921

滝花利朗 自宅TEL 0773-44-1734

メール [t.takihana@nike.eonet.ne.jp](mailto:t.takihana@nike.eonet.ne.jp)